

素粒子原子核研究所活動報告(2) 安全グループ

2026年6月

安全巡視と巡視体制の再構築

安全グループは、素核研の実験グループが安全に研究を遂行できる適切な実験環境の構築と職員の安全意識向上を目的として活動しています。安全巡視は、その活動の中でもっとも重要な取り組みの一つとして実施してきました。現在の体制で巡視を始めて6年となり、深刻な指摘事項は非常に少なくなっており、実験環境が改善されてきていると考えています。

一方で、我々の活動とは別に機構の安全衛生推進室(安衛室)が主導している職場巡視があります。これは法令に基づいた活動と位置付けられています。こちらは決められた素核研技術職員が各実験施設を巡視し、その報告を安衛室に伝えることが主務となっています。しかし最近では職員数の変化や高齢化のため、継続して行うことに懸念が生じていました。

これまでこれらの二つの巡視活動は、協力しつつも別々に行われていました。このような事情を考慮し、この二つの活動をできるだけ統合し、より有効な巡視ができる体制を構築する提案を2025年3月に行いました。その後、実験グループの方の協力を得ることによって、新しい体制のもとで2026年5月から巡視を行うことになりました。この体制では、実験グループから安全点検者を設け、その下で各実験グループが当番者を決めて月一回の巡視を行うことが基本となります。安全グループはこの巡視に適宜参加し、当番者に同行して巡視をします。これによって、安全グループが点検する視点を当番者に伝えることができます。さらに、法令に基づきながら、今までと比べて、より多くの方に参加してもらえ、この巡視活動を通じて、広く各自の安全意識の向上にもつながることが期待できると考えています。

また、巡視の指摘事項などの報告については紙媒体または電子ファイルのやり取りでしたが、安衛室の協力を得て、機構が導入したOfficeの機能を使ってオンラインで報告できるシステムを作りました。この手法では、指摘事項の統計情報など事後の解析が迅速に実施でき、的確なフィードバックが得られることが期待されます。このような体制で巡視から報告までを実施するのは、機構では素核研が初めてとなります。今後も安衛室と連携し、必要な改善を行い、長期に持続できる巡視体制を確立していきたいと考えています。

救急対応講習会

2025年の夏に素核研の共同利用者が急病になり、救急車を呼ぶ事態が発生しました。幸い重大事象には至りませんでした。この時の対応について、いくつか反省点が指摘されました。例えば、事務室・秘書室には安衛室より簡易担架が設置されている箇所があります。しかし、この情報が共有・徹底されておらず、さらに、この担架の使い方を学ぶ機会がなく、今回の事例でも簡易担架の有効使用はできませんでした。このような点を改善し、より確実

に適切な対応ができるように講習会を2026年2月20日に開催しました。このような救急対応に関する講習会を開催するのは、一昨年度に開催したAED講習会に続いて二度目となります。講師としてKEKの産業医と保健師を招き、素核研及びQUPからは研究者だけでなく事務の方も参加していただき、総勢で21名が集まりました。産業医の内田先生からはスライドを用いて緊急対応の重要性とその方法を教えて頂き、清水保健士からAEDの使い方とその設置場所などをお聞きしました。その後は、少数グループに分かれ、実際に簡易担架の使い方の実技を行いました。担架の展開方法から実際に人を担架に乗せての運搬まで実践しました。担架を持ち上げてみると思ったより重いこと、複数人で息を合わせて持ち上げることの重要性など実用的な知見を得ることができました。今後もこのような機会をもうけ、多くの方に参加いただければと思います。



講習会の様子

第3回安全ワークショップの開催

2026年6月2日に安全ワークショップを開催しました。このワークショップは2023年から開始し、約1.5年に一回のペースで開催しており、今回で3回目となりました。このワークショップでは、職員の方に「安全についての考え」を自分のこととして捉え、より意識的に日々の研究活動に生かしていただくことを目的として行なっています。

今年はCERNの労働安全衛生グループのリーダーであるSaverio La Mendola氏を招待し、

基調講演を行なっていただきました。本講演では、CERN の安全原則から実際の実験活動への適用、さらには LHC 実験の長期シャットダウン中の様々な活動について、より安全に実施できる体制構築から将来計画である FCC における安全まで、有益なる広範囲な報告をいただくことができました。この講演は機構内外の方にも参加できるように公開したところ、オンラインの参加を加えると 100 名を超える聴講者となりました。

さらにプログラム後半では、4月に J-PARC で発生した火災事故についての詳細報告と前回も取り上げた筑波実験棟の墜落事故からの最終的なフィードバックとそれに関する活動を取り上げました。今回はこのようなことに加え、「高齢化に対応した職場環境」と「共同利用者の緊急事例とその対策」という話題も加え、幅広いトピックスを議論できる場となりました。会場では質問や関連する意見がだされ、それぞれの話題について議論する有意義な機会となりました。



安全ワークショップ会場